

平成30年度学校評価表(評価項目・評価の観点)

学校番号	75
------	----

長野県梓川高等学校

5: 十分 4: ほぼ十分
3: どちらともいえない 2: やや不十分
1: 不十分

*「評価項目」の() 数字は、本校の今年度重点目標の項目番号

領域	対象	H30 評価項目	H30 評価の観点	中間時の成果と課題	評価	具体的な改善策・向上策		
教育活動	教育課程	(1)	教育課程研究とコース制の充実	コース制について、本校で実施している内容を具体化かつ発展させ、外部に正確に発信できているか。	コースの内容を再吟味して、学習内容を継続できるように模索した。外部への発信については、工夫の余地がある。	3	3学級体制となり今後コース制をどう発展させていくか、外部の意見を参考にするとともに、教科間での論議を活発化して策定する。	
				生徒の要望や進路状況に応じた、カリキュラム・選択群の研究・検討を行い、特色ある教育課程づくりを行っているか。	一昨年度の選択群の見直しを受け、変更内容が生徒の要望に適していることを確認することができた。新しい選択傾向に対応できるように努力したい。	4	委員会と学年間の連携を取りながら来年度の生徒選択をスムーズに決定することができた。今後の教育課程の改編は、計画的に進める必要あり。	
	学習指導	(1)(2)(3)	基礎基本の定着と個の興味関心に応じた指導	生徒の学力実態に対応し、指導・評価の工夫や教材作成に取り組んでいるか。	基礎基本をどのように授業・学校生活全般を通して伝えていけるか、他県の先進的取り組みを視察し改善に取り組んだ。	3	係と長期ビジョン委員会で検討し、来年度より全学年において基礎学力の充足のための朝学習に取り組むこととなった。	
			授業評価による授業改善	授業アンケート、定期考査等を通じ、生徒の理解、関心の度合いを図りながら授業の計画・改善に努めているか。	定期考査等を通じ、また5月末からの「教員相互の授業公開」の機会を利用しながら授業改善に取り組んでいる。	2	授業アンケートの方式の改善により、生徒の評価を速やかに授業改善へと繋がられる形に検討したい。	
	進路指導	(1)(2)(3)	3年間を見通した計画的な進路指導	学年や個に応じた進路指導計画の策定と適切な進路情報幅広く収集整理し、積極的かつ適正に活かしているか。	各学年ごとに計画立案し、着実に計画を実施してきている。各学年時期を見て必要な情報を生徒に流し、対処してきている。	4	各学年進路計画に沿って実施。3学年は進路がほぼ決まり、1、2学年も将来を見据え指導ができています。進路情報冊子の流し方は検討の余地あり。	
			進路希望の実現と職業理解の促進	働くことの意味と責任を自覚し、社会の一員として生きる力を育成するために、1学年からの意識付けや、ワーキングセミナー、各種適性検査等の実施ができたか。	1年は将来を見据えて、進路を大きくくりで考えさせており、二年は次年度の就職・進学に繋がる指導に入り、3年は進路実現に向け就職はほぼ決まり、進学は進行中である。	4	各学年進路ガイダンスを適宜実施。特に3年、2年では就職者に会社説明を実施。改善しながら今後も継続予定。AO入試の対応は再度基本線を確認。	
	生徒指導	(1)(2)(3)(4)	基本的な生活習慣の確立	全職員の協力で生徒指導に当たり、集団生活のマナーやルール遵守の定着を図っているか。	様々な問題に対して、担任・学年・管理職とともに、連携を取り合い、チームで対応する体制をとっている。	3	例年に比べて問題行動はかなり減少したが、校内での盗難の対応に大変苦慮した。効果的な予防策を引き続き検討していく必要がある。	
			生徒相談体制の充実	生徒の状況を把握し、関係者間の連絡を密にして適切な支援体制を整えているか。	毎月、係の定例会を実施し、生徒の状況や様々な課題について情報共有した。SCの活用も活発で、支援体制ができています。	4	定例係会を開催し、生徒の状況把握、情報共有を行う。SCの定期的な来校により、授業視察も積極的に行いたい。職員が要望に添った研修会を実施する。	
	生徒会	(3)	自主的、主体的に行動する生徒の育成	生徒の自主活動に適切な助言と指導を行い、責任感・自治能力を育てているか。各活動を安全に行えているか。	平時の「挨拶運動」、梓水祭でのクラス発表等、生徒の自主的提案を取り入れ新たな取り組みを行っている。スマートフォンの取り扱いについて考え回収案となった。	4	校内での活動は引き続き自主的に提案し、より多くの会員が参加できる試みをしている。また、校外において地域との関わりをさらに深める交流会を計画しており地域に必要とされる学校にしていきたい。	
	学校運営	組織運営	(1)(2)(3)(4)	学校評価活動の充実	学校評価活動を通して、教育活動の向上・改善を図っているか。	第1回の学校評価アンケートを7月に実施し、生徒・保護者からの要望に対応している。また、学校評議員会を通じ、教育活動向上に努めている。	4	第2回の学校評価アンケートでは回答項目を追加した。アンケート回答を活用し、教育活動の向上・改善を図れるよう努めたい。
				情報提供	本校の教育活動に関する情報や資料を、積極的に・迅速に公開・提供をしているか。	本校ホームページにて、随時生徒の活躍や学校評価等をアップロードし情報公開に努めている。また、中学校訪問の用に高校だよりを発行し、中学生にも情報を提供できた。	4	今後ホームページを一新する予定である。新しいHPや「梓川高校だより」を通して、本校の教育活動を発信していきたい。
		地域連携	(1)(2)(3)(4)	地域の声を教育活動に生かす	様々な場面で地元との連携を図り、地域の声を教育活動に生かしているか。	同窓会、PTAの方々との連携をはかり学校行事への協力をお願いした。また、地域モニターの方との意見交換も行った。	4	同窓会・PTAの方々積極的に学校行事に協力していただけた。また、3者による話し合いの場を、例年以上に多く取ることができた。
			教育力の活用	地域の教育力の活用を推進し、生徒の学習意欲を引き出しているか。	地元の中学との連携を「出前授業」を行った。また、地域の各種行事にもボランティアとして積極的に参加している。	4	今後も地域の方々の協力を得て、「信州学」や体験学習などがさらに充実するよう改善、継続していきたい。	
校内研修	(1)(2)(3)(4)	授業・学習指導法の改善	職員が積極的に取り組める、研修会及び公開授業・研究授業等がなされているか。	本校将来像についての研修を、ビジョン委員を中心に行い、今後学校存続のために何をしなければならないかを話し合う場を設けた。	4	公開授業について、さらに多くの中学生・保護者・地域の方に参加いただけるよう、内容を充実させたい。		
		生徒の理解	多様な生徒の悩みを理解し、支援に結びつく研修となっているか。	様々な場で、生徒についての情報共有を行うようにしている。10月にはカンセラーに、生徒理解・生徒支援についての職員向け研修会をいただいた。	4	1月にも生徒理解をテーマに研修を行った。各関連外部機関との連携がうまく機能しており、引き続き生徒支援の体制を堅持していきたい。		